

ブラウザを活用しよう(4)

鈴木 寛 (兵庫教育大学教授)

音源システムの確認

通常MIDIファイルを演奏するには内蔵又は外付けのシンセサイザが必要です。最近「ソフトシンセ」や「バーチャル音源」と呼ばれるものが流行しています。これらは、外付けの独立したシンセの機能をコンピュータ自身の「余暇」つまり仕事をしていない瞬間を使ってシミュレートするやり方で音を出します。ですから、音を出す原理は外付けのものと同じです。しかし、あくまでも本業の合間をぬって作業するわけですから、本業の忙しいアプリケーションや能力の低いコンピュータでは息切れがしたり音が遅れたりします。それでも最近のコンピュータはメモリも大きく、クロックも高速になっていますからあまり気になるほどの障害はありません。

ブラウザを使って音を鳴らすには「Plug in」と呼ぶブラウザに埋め込むリソースを使うのが一般的ですが、それ以外にコンピュータ自身の内部音源を使うこともできます。勿論外部の音源を鳴らすのが最も理想的であることは言うまでもありません。現在「MIDIを鳴らすための」最も一般的なPlug inは先月号で紹介したQuickTimeですが、その音源のソースはローランド社のものです。それに対してヤマハからはMidiPlugという名称でXG仕様の音質で鳴らすものも出ています。ピアノの音はヤマハのものは明らかにヤマハピアノの音をサンプリングしていますのでヤマハピアノの音がします。両者の特徴的な違いは「ストリングス」や「擦弦楽器」にあらわれます。言うまでもなく「ストリングス」は「ストリング」の複数形です。つまり弦楽器群の音ですが、シンフォニックな音はローランドの方が自然です。しかし、単音の「バイオリン」などの表現力の可能性はXGの方が高いように思われます。同じデータでもまるで違う音楽になってしまう例を先月号で紹介しましたが、実行された方は意味が分かることでしょう。又同じデータでもエフェクト次第でまるで違う音楽になってしまうこともありますから注意が必要です。

ネットスケープでは「編集」ダイアログの一番下にある「設定」を開き、カテゴリー「Navigator」の中から「アプリケーション」を選ぶと右側にずらっとプラグインが表示されます。その中からAudio/x-midiなどの表示のものを選び、「編集」をクリックします。「動作」の囲みの中からプラグインアプリケーションなどの選択肢がありますから外部音源につながったアプリケーションを選ぶ(例えばEZvisionやMac郎など)あるいはプラグインを選んで、そ

の種類を指定するなどの方法で複数の環境を指定できます。

IEの場合は同じく「編集」の一番下の「初期設定」を開きます。ネットスケープとちがってIEの場合はWebブラウザではなく「受信ファイル」から「ファイルヘルパー」を開けます。後はネットスケープと同じです。これらの手順は意外と知られていませんが、IEではプラグインをインストールすると自動的にこの設定がなされるからでしょう。しかし、自動設定の困るところはその音源をプラグインにしたいとか外付けにしたいなどの設定ができないことです。しかし、MIDIPLUG等では右クリックで音源の再設定ができますから試して下さい。(QuickTimeはコントロールパネルで)また予めQuickTimeそのものでMIDIファイルが演奏されることも確認して置いて下さい。

ネットスケープでは複数の人間の使用環境が設定できますが、その設定によっては設定画面で「アプリケーション」がシャドウになって選択も編集もできないことがあります。この場合は不必要なプロファイルを削除すれば編集できるようになります。

さあ演奏!

<HTML>

1番タグ開始、(曲1) 1番のタグ終了

N番タグ開始、(曲N) N番のタグ終了

</HTML>

のルールとはちょっと違いますが、頁を開いたら音楽が演奏されるHTMLを書いてみましょう。

<HTML>

<EMBED SRC=" .mid"

REPEAT="false" AUTOSTART="true">

</HTML>

これで のところに「同じ階層に置いてあるMIDIファイル」の名前を書いてみましょう。

WIDTH="100" HEIGHT="30"等を付け加えると画面に表示される再生用のパネルの大きさをピクセル単位で指定できます。

IEだけでしか演奏できませんが、

<BG SOUND SRC=" .mid" LOOP="-1">

をEMBED SRC=" .mid"の代わりに使ってみてもよいでしょう。

LOOP="-1"の-1はエンドレスに繰り返す(0は1回だけ演奏)の意味です。